

平成27年度第3回まち・ひと・しごと創生審議会

<議事概要>

日 時：平成27年9月18日（金） 午後2時～4時

場 所：白井市役所 4階会議室2

出席者：【委員】

高尾公矢委員、山田壽一委員、宇賀義則委員、島津政男委員、駒村武夫委員、志摩龍雄委員
武田一登委員、返田博昭委員、長野和夫委員、市川温子委員 10名

【事務局】

折山企画政策課長、村越主査、富田主査補、勝又主事

傍聴者：4名

1 開会

（事務局）

- ・平成27年度第3回まち・ひと・しごと創生審議会を開催いたします。

2 会長挨拶

（会長）

- ・大変お忙しいところをご出席いただきましてありがとうございます。
- ・本日の議題は、白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）及びアクションプラン（案）についてです。白井市の総合戦略につきましては、ついに策定の大詰めの段階となっており、10月1日からは、パブリックコメントを実施する予定となっています。また、本日は新たにアクションプランも示され、具体的な事業の方向性も見えてきています。本日は、提示された総合戦略（案）について、審議会としてこの案で了承するか否かを重点的に審議していきたいと思っております。
- ・委員各位におかれましては、十分にご理解の上、忌憚のないご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしくご意見申し上げます。

3 議題

- ・白井市附属機関条例第6条第1項により高尾会長が議長を務め議事進行。
- ・議題に入る前に、第1回・第2回の会議録について了承。

（1）白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）及びアクションプラン（案）について

- ・資料1～3、追加資料1～4に基づき事務局から説明

（概要）

○事業者アンケート調査の中間集計結果について説明

- ・調査の対象は、白井市内で商業を営んでいる方で商工会に加盟している事業所等517件で、回収率が44.9%、232件の回答があった。
- ・従業員数は、1～3人が57.3%で、比較的小規模な事業所が多い。
- ・営業年数については、30年以上が47.4%で、市内で長く商業を営んでいる方が多い。

- ・経営者の年齢については、60歳代、70歳代の割合が高く、経営者の高齢化が進んでいる。
- ・主な業種は、サービス業が28.4%、小売業が23.7%で、この二つで全体の過半数を占めている。
- ・昨年と比較した経営状況については、売上高、利益については、約半分の人が減少していると回答し、の将来の見通しについても「暗い」と回答した人が44.8%と多い。
- ・経営上の課題については、客数や売上の減少・伸び悩み、経費の増加、景気低迷が多い。
- ・今後の経営方針については、現状維持が50%となっている。
- ・市の商業施策に期待することについては、公的融資制度による支援、人材育成に対する支援、商業の振興計画の策定、空き店舗の活用支援が多い。

○工業団地実態調査の中間集計結果について説明

- ・経営課題については、人材の確保が困難であるが約50%と多い。次に多いのが従業員の高齢化である。
- ・今後の経営方針（事業面）は、自社技術や製品等のPR、独自技術や製品等の開発が多い。
- ・今後の経営方針（人材面）は、若い人材の確保が約50%と多い。
- ・市の産業振興策への期待として、道路の整備が一番多い。

○千葉県人口ビジョン（案）の説明

- ・千葉県全体の人口は、平成22年の621.6万人をピークに既に減少傾向に入っている。2060年には433.5万人まで減少するという推計である。
- ・人口ピラミッドをみると、1980年は比較的三角形に近い形、2010年については団塊の世代、団塊ジュニア世代の大きな人口の塊があり、壺型の形に推移している。2060年になると、1980年と比べると全く逆の構成になり、高齢化が進んでいくことが見込まれる。
- ・高齢化率は、2060年には39.5%で、2.5人に1人は高齢者という時代が訪れると推計されている。白井市の2060年の高齢化率の推計は41.1%であり、県平均より高齢化が進展していくことが見込まれている。
- ・目指すべき将来の方向は、「くらし満足度日本一の千葉」として三つの方向性を掲げている。人口の社会増を図っていく取り組み、少子化への挑戦、人口減少に対応した県づくりとなっている。
- ・この方向性に基づいて取り組みを進めた場合の県全体の人口の見込みについてパターンが三つ示されている。パターン1は合計特殊出生率を国の長期ビジョンと同様に2030年に1.8、2040年に2.07に上昇させるという仮定を置いて、2060年には518万人が維持できるという推計、パターン2では、パターン1の合計特殊出生率の上昇に加えて、転出者の23.7%の人が5年間で千葉県に戻ってくるという仮定を置いて、2060年には541.1万人が維持できるという推計、パターン3は、パターン1の仮定に加えて、転出者のうち53.1%の人が5年間で千葉県に戻ってくるという仮定を置いて、2060年には576.2万人が維持できるという推計になっている。
- ・市の人口ビジョンでは、①合計特殊出生率の向上、②若い世代の転出抑制を掲げており、県の方向性と市の方向性については、合計特殊出生率の上昇と、社会移動の改善という基本的な方向性は一致しているため、白井市人口ビジョン（暫定版）を市の最終案としている。

○総合戦略（案）とアクションプラン（案）について説明

・総合戦略（案）の前回からの変更点は、5ページと6ページのアンケートの結果に基づき白井市の特性のほうを整理した点、数値目標・重要業績評価指標を設定した点である。

・若い世代が定住するまちづくりの基本目標に対して、平成31年までには累計で1,000人社会増を目指すという数値目標を掲げている。

具体的施策の重要業績評価指標として、多世代近居の推進では、近居者数を累計80人、安心して楽しく子育てできる環境づくりでは、待機児童数0人、保育環境満足度75%、不安な気持ちが和らいだ人の割合50%、子どもの力を育む環境づくりでは、将来の夢や目標を持っている児童の割合91%と学校満足度93%を掲げている。

・人を魅了するまちづくりの基本目標に対して、白井市に対する市民の愛着度73%の数値目標を掲げている。

具体的施策の重要業績評価指標として、しろいの魅力発信では、ツイッターフォロワー数1,500人、なし坊サポーターズ50人、交流の拠点づくりでは、フェスティバル等参加者数5,000人、市民農園・体験型農園利用者数300人を掲げている。

・産業が活力を生み出すまちづくりの基本目標に対して、新規雇用創出数累計20件の数値目標を掲げている。

具体的施策の重要業績評価指標として、魅力ある農業の推進では、梨農業者数216戸、農産物売上高5千万円、援農ボランティア数40人、新規就農者数4人、チャレンジできる環境づくりでは、就労等マッチング件数100件、起業件数2件を掲げている。

・住み続けたいまちづくりの基本目標に対して、総人口65,000人と白井市に住み続けたいと思う市民の割合70%の数値目標を掲げている。

具体的施策の重要業績評価指標として、市民力・地域力を発揮する地域拠点づくりでは、まちづくり協議会数2、コーディネーター配置数10人、生活支援サービス事業者数6事業者、安心な暮らしを支える環境づくりでは、自主防災組織数62組織、スポーツ・趣味等の地域活動をしている人の割合30%を掲げている。

【質疑等】

（委員）

・まちを活性化させるためには、経済的に豊かになる方策、市民の能力を生かせる仕組みづくりなど、戦略に定めた事項を一つ一つ取り組めば良い結果につながると思う。定めた事項をどう具体化していくか、そういう階段を一步一步上る必要があると思う。

（副会長）

・移住という言葉には、転入と転出の両方の意味があるが、あるページは転入の意味で、あるページは転出の意味で用いられているので、整理した方が良い。

(会長)

- ・ 6 ページのアンケート結果の部分に工業団地のアンケートは入るか。

(事務局)

- ・ 検討をさせていただきたいと思います。

(委員)

- ・ 農業、工業、商業があつて、まちを発展させていくには、もう少し工業の関係も足してほしいと思う。これで終わりではなく、どんどん補強していくという姿勢があれば良い。
- ・ 工業団地のアンケートについては、まとめ次第報告する。

(委員)

- ・ 基本目標③の新規雇用創出数は、累計目標が5年間で20件となっているが、業種は農業に限定するのか。一般の商業、工業も入って、5年間で20件の雇用というのは、ちょっと少な過ぎるような気がする。13ページの「チャレンジできる環境づくり」の、起業件数が5年間で2件というのは、市がサポートした件数なのか。

(事務局)

- ・ 新規雇用創出数20件は、新規就農者数4人と、起業件数2件、就労等マッチング件数の中で就労に結びついた人を足して20件と想定しており、総合戦略に掲げた取り組みによって創出された件数が20件ということである。起業件数2件は、市の創業支援事業の中で起業に至った件数ということで2件を想定しております。

(会長)

- ・ 質問は、少なくないかということ。

(委員)

- ・ 目標値は、現実可能な数字のほうがいいのか、事業実施のために見栄えがいい数字のほうがいいのかという実情があると思うが。

(事務局)

- ・ ある程度は実現できる数字でと思っている。

(委員)

- ・ 白井市で会社を起こされた方の件数と、廃業している会社の件数など現状がどうなっているのかわかると良い。戦略が農業に焦点を当てているが、財政面を考えると、商業、工業にももう少し光を当てて検討されてはどうかと思う。

(事務局)

- ・ 会社を起こされた件数と、廃業した件数は、工業統計調査などの統計では、分からないところがある。
- ・ 商業、工業についての施策について、まずは、工業団地のPRをしていくとしている。そして、市民の就労者を増やしていきたい。

(委員)

・起業した場合には、法務局に届けるので、新しく会社を起こされた数字は把握できるのでは。そうすれば客観的なデータを得られて、具体的に検討できると思う。

(事務局)

・法務局の閲覧について、調べる。

(委員)

・「チャレンジできる環境づくり」の起業件数の目標値2件について、ただ起業件数という結果だけではなくて、「チャレンジできる環境づくり」というようなタイトルにあるように、空き店舗を活用したチャレンジショップなどトライした件数を目標値にしても良いのではと思う。期間を短くしたり、チャレンジする人が負担がなくなるような施策をとって、やってみてダメだったら、またやり方を考えて、再トライできるというという環境を整え、そういう指標というものも考え方としてはあるのと思う。

(事務局)

・チャレンジした件数ということと、やはり継続を求めるという部分があると思うので、検討する。

(委員)

・商業者アンケートの調査結果の業種で、小売業、サービス業、その他とあるが、サービス業やその他の中身は、どのような内容なのか。サービス業とその他の割合が高いので、この部分が分からないと商業全体が分からないと思う。

・総合戦略(案)の基本的な考え方で、人口減少と地域経済縮小の克服、「東京一極集中を是正する」とあり、地方から東京圏への人口流出に歯止めをかけるという方向が示されている。白井市は地方ではなく、千葉都民と言われているように、職が東京にあっても、住居は千葉にあるという方がいる。データで見ると東京で働いている方が7割、白井市外の千葉県内は3割と、市外で働いている方の割合が大きい。なぜ市外で働いているかという、市内にはない職業、業種があるということである。白井に住んでもらって、市内で働いてもらうためには、それに見合うような職業部分をつくってあげれば良いと思う。

・東京に働いている方の奥さんたちには職を与えたり、生活面を良くしてもらうことです。白井市の特徴として環境が素晴らしいという部分もあるが、環境だけで満足するかというと、そうではない。買い物に行く場合に、市内で消費してもらえればいいが、それに見合うような設備等が市内にあるのかということです。印西のニュータウンのようなものを二番煎じとして作ってもしょうがないので、市内に差別化できるものをつくっていかなければいけない。そうすると農業を中心にするのはわかるが、農業以外の部分でも商業、工業にしても、そのような部分にもう少し力を入れるような政策があってもいいと思う。

・農業の今後の方向性として、若い人がそこに職を見つけるということは難しいような気がするので、農業ももちろん活性化しなければいけないが、それ以外に、多くの人たちが働けるような場所づくりを目指していく必要があるのではないかと思う。

(事務局)

- ・戦略の期間が5年であるということが一つある。現在都市マスタープランという20年の計画を策定しており、商業を含めた流通など様々な面で考えている。北環状線沿いに病院ができるので、働く人が休みの日に何かつろぐカフェを作ってみるというようなことも考えている。
- ・アンケートの「その他」の部分については、具体的に記載をお願いしており、まだ集計ができていない。

(委員)

- ・この「その他」の中には、製造業も入っているか。

(事務局)

- ・製造業も入っていると思う。

(会長)

- ・総合戦略の基本目標①の基本的方向で、「子どもの教育なら白井」とあるが、保育についても記載しているので「保育・教育」とした方が良いのでは。

(事務局)

- ・検討する。

(副会長)

- ・基本目標にサブタイトルをつけたらどうか。例えば、若い世代が定住するまちづくりには「子育て日本一」、「子育てのまち白井」とか、人を魅了するまちづくりには「白井の魅力発揮」とか、産業の活力を生み出すまちづくりには、「農と食の連携」とか、住み続けたいまちづくりには「市民みんなに役割と出番」というふうに見出し的につけるとか。

(事務局)

- ・検討する。

(委員)

- ・「なし坊サポーターズ」を効果的にするために、白井出身のホリさんのような有名人と、なし坊を結びつけて、マスコミでどういうふうな展開ができるか戦略を考えてほしい。市が主導してというわけにはいかないかもしれないが、PRに役立つ人材を並べて、彼らになし坊を使って何か活動ができないか聞いて、支援できるものがあれば市民全部がサポーターになって応援をする。例えば投票をするとか、はがきを出すとか、そういったような仕掛けをするとか、マスコミに対する仕掛けを考えるとということです。

(事務局)

- ・ホリさんには白井ふるさと大使として動いていただき、19日の11時に「マツコとマツコ」になし坊が出演する。職員もツイートしてなし坊の知名度を上げようと動いている。

(委員)

- ・そういう仕掛けをたくさんつくって考えて、みんなでサポートする。

(事務局)

・仕掛けですね。あともう一つ、先々週にTBSのラジオで、爆笑問題の太田さんが出演する番組「茨城の梨と白井の梨」で、収録現場に茨城の梨は送られてきたが、白井は「なし坊」が梨を持っていき、ラジオの中で太田さんにいじってもらった。このように職員も梨を送るだけではなく、「なし坊」を連れていってみようとして動いてくれている。

・いろいろな仕掛けをつくって白井市のイメージアップを進めていく。

(副会長)

・例えば、白、白井という名前に徹底的にこだわると良い。例えば、JRAに頼んで中山競馬場の白井特別のレースで全部芦毛の白い馬を走らせるとおもしろくて、注目する。

(委員)

・体操の白井(シライ)さんとコラボできるといいですね、「なし坊」を連れていって。白井をよろしく。

(委員)

・パプコメの際、一般の方が読んで、どのような意味かわからない部分もあると思う。例えばPDC Aとか、近居とかの用語解説があると、読んでいて分かりやすいと思う。

(事務局)

・一般市民が読んでわかる言葉の解説は必要と思うので、用語解説を付けるようにします。

(委員)

・日経新聞で、地方創生交付金の関係で市町村の戦略で格差という記事があったが、白井市が他との格差があるという部分はあるのか。

(事務局)

・提出したタイプ1、タイプ2の全体像については全くわからない。印旛郡市の会議が昨日あって、他市町の話しから察すると、私がひいき目なのかもしれないが、他の市町よりは考えられた施策を提出したと考えている。格差というのは、そういう意味だと思う。

(委員)

・つい最近の新聞で、白井の土地価格が下がっているという記事があり、がっかりした。住み続けたと思う白井市を目指すなら、地価が上昇してくれるとありがたいと思う。

・近居を目指す年間20人はどう積算したのか。

(事務局)

・今年の1月から6月まで、市民課窓口で、転出入者にアンケートを実施した。その中で、転入の理由で「親の近くに住みたいから」と答えた人の割合をもとに、年間20人という計算をしている。特に30代・40代の方で、転入される方の約二、三割が、「親の近くに住むから」というような回答があった。

(委員)

・やっぱり潜在的には、そういう希望者が多いということですね。それは多いのか。

(事務局)

- ・相対的にどうかということとは分からない。

(会長)

- ・ニュータウン高齢化していくから、そういう面で子供が近くに住んで。

(委員)

- ・素晴らしい政策だと思うが、長野さんのお話につけ足すような形で、やっぱり市民の皆さんにわかりづらいというのと、やっぱりじゃあみんなで頑張って盛り上げていこうという動機づけを「なし坊」をうまく利用して使っていったらいいと思う。

(会長)

- ・提出されました総合戦略(案)については、了承していただいたというふうに理解してよろしいか。用語の解説、指標、アンケートのデータを入れるなどの修正はあるが、基本的な事柄に関しては、よろしいか。

(委員了承)

(会長)

- ・事務局から、その他についてあるか。

(事務局)

- ・この会議が今年度最後となる。タイトな期間であったが、多くの貴重な意見をいただくことができた。
- ・来年度、第1回の会議は4～5月頃に開催したい。日程が近づいたら日程調整する。

4 閉会